

お笑ひ草

或時に和尚様が、子僧を困らせてやらうと思つて、

和尚「子僧や〜」

子僧「はい和尚様、何か御用で」

和尚「オー他でもない、お前は平生から中々伶俐

者で、時々此和尚もやられるとがあるがの

〜どーだい、此湯吞へこーして湯を注い

でやるが、これを蓋して呑んで見ないか」

子僧「へー蓋したなり呑むんですか、畏こまりま

した」

と蓋した湯吞を手に取りらうとして

子僧「熱つ……オー熱い、和尚さん一寸、水を埋

めて頂戴、熱くつ〜とても手に持てま

せん」

和尚「ははわー意氣地がないの！ どれ水を少し

さしてやらうか』といつて和尚さん、蓋を

取らうとする

子僧「あつ和尚さん、蓋を取らないで、水をさ〜

なければいけません」。

●明るる日になつてから 又和尚さんが、

和尚「子僧や〜」

子僧「和尚さん、何か御用で」

和尚「オー他でもない、一寸繩を持っておいで」

子僧「はい……これで宜しうございますか、こ

れで何を致しますので」

和尚「あの襖に書いてあるのは、何か知って居る

か」

子僧「へい あれは應擧の虎でござります」

和尚「そーじやお前一番其繩であの虎を縛るのじ

や」

子僧「へーあの書にかいた虎を、この繩で宜しい

和尚さん、私こゝで構へますから、和尚さ

ん向うへ廻つて一番あの虎を追ひ出して下

れさ』

摺み方

今度も又前のついでに、第一は額です、これは二艘船をひろげて、一圖のよーにし、その船の底てあつた所を、中央で合ふよーに、裏へ折りかえして、二圖のよーにし、そのイとロとの所を、三圖のイとロのよーに折り、又ハニホへの端を裏へ摺み込んで、四圖のよーにいたすのです、これ額か出來ました。

次は、朝鮮船とゆーのですか、これは三圖のハとニの端を持ってこれを引き出して、五圖のよ

ーにし、そのイロハニの縁を、中央で合ふよーに裏へ折りかえし、六圖のよーになりましたら、その一方のはしへひだをとり、又縦に二つに折つて七圖のよーにし、そのイとロの所を持つて 中央のひだを残りなくのばしますと、八圖のよーな船か出來ます。

